

平成31年度 第2回東大和市まち・ひと・しごと創生会議 会議要録

会議名 第2回東大和市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時 令和元年10月26日(土) 午前9時30分から11時30分
開催場所 会議棟第1会議室
出席者 (委員) 牧瀬委員(座長)、小島委員(副座長)、目黒委員、富田委員、水上委員、
高橋委員、大塚委員、赤坂委員、斉藤委員、浜田委員、石田委員
(事務局) 田代企画財政部長、星野企画財政部副参事、雨田主任
会議の公開・非公開 公開 傍聴者 0人
会議次第 1 開会
2 座長あいさつ
3 委員自己紹介
4 内容
(1) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について(意見聴取)
(2) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延伸について(意見聴取)
(3) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

会議の結果及び主要な発言

(1) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について(意見聴取)

委員:

外部有識者意見の欄にご意見を反映させていく。ご意見がないものは、良好ということなので、「おおむね良好」と書いていく。ご意見があれば、遠慮なくいただきたい。

委員:

資料をいろいろ見まして、質問がある。その質問に皆様から意見がもらえたらと思う。

基本目標の1については、市長が目標として掲げている「日本一子育てしやすいまち」があるので、施策が一つ一つ成果に結び付いているという印象がある。

P. 2の「合計特殊出生率」であるが、合計特殊出生率が「1.59」と東京都の区市部で第一位という結果で喜ばしいが、第2子第3子を育てていただくという意味で、第2子第3子を産みやすい子育て環境を作っていくことが大事だと思う。当市が、評価が高いのはその辺りに注力されているからだと思う。引き続き第2子第3子を産みやすい、東大和市らしい施策を取り入れて進めていただきたい。

P. 3の「子育ての力になる」に関してだが、乳幼児の感染症予防対策について、先日、主治医からこんな話を聞いた。ラグビーワールドカップ行われているが、来年はオリンピックが行われ、外国から多くの選手や観光客が来る。医師が心配しているのは、感染症対策が十分であるのかということ。

自分たちで身を守る手段として、マスク着用を推奨された。

そこで、オリンピックにおける市の感染症対策について、聞きたい。

P. 4の「保育園の待機児童の数」は、待機児童0を目指しているところだが、年度により増減があるのはやむを得ない。保育士不足に関しては、市町村間競争があるようなので、保育士確保のための処遇の改善に注力していく必要がある。新聞によれば、ある市では処遇改善として手当を引き上げたところがあるよだから、引き続き注力していく必要がある。

一つ疑問に思ったのは、学童保育所不足のために、民間学童保育所を開所したが、見込んだ定員に満たない保育所があったという記載がある。これはどういう事情なのか、理由を聞かせてほしい。

P. 5の「教育力向上事業」については、教育力の向上、教育環境の整備が課題。また、いじめや、先生の労働時間の点などもあり、そういった意味からも人材の確保が大事だと思う。

また、先生不足ということが記載されているが、何か特別の理由があるのか教えてほしい。

P. 6の「創業支援事業」については、令和元年9月1日に南街の交番前に新しく創業店舗の企画が始まったが、良い企画だと思う。

創業塾について、委員から意見を伺いたい。20名の受講者のうち、創業者が2名ということは、1割が創業したということになる。創業に至らない18名の理由がどの辺にあるのか聞きたい。私が思うには、開業資金の面と店舗の確保が原因ではないかと思っている。

また、創業希望者が希望している業種はなにか。創業に対し、一番苦勞しているのがどこなのか。資金面なのか、場所の面なのか。その部分を掘り下げることによって、資金面であれば金融機関に携わっている委員からの意見を反映するような施策がいるのではないかと聞きたい。

P. 7の「しごとを見つける力になる」については、何名職場のあっせんできたのかという実数が大事である。どの業種の方にお聞きしても、人が足りないと言われる。

求人側と求職側のミスマッチがないかどうか。また、効率の良いあっせん方法が必要ではないかと思うが、その点を聞きたい。

P. 8の「特産品の開発」であるが、東大和市はお茶や生鮮野菜がある。そういうものを使った商品開発について聞きたい。例えば、生産者だけでなく、業者を交えた試作品をつくり、モニターに感想を聞きながら新しい商品をうみだす。そういった意見を聴取する体制をとられているかお聞きしたい。

P. 9の「東大和市の魅力を伝える」について、うまべえというキャラクターが当市にいますが、それにもう一つプラスアルファの人気を呼ぶようなキャラクター。例えば、地元の著名人などを活用し、新しいキャラクター的な存在となるものをつくらないのかお聞きしたい。

P. 10の「東大和市への観光客を増やす」であるが、ある新聞の記事に人気の観光スポットとして、高尾山、井の頭公園とあった。東大和市の観光スポットといえば多摩湖だが、一般の市民から多摩湖はどのくらい認知されているのか。気になるところがある。

この新聞のアンケート調査によると、行きたいところの3番目が昭和記念公園となっている。高尾山、井の頭公園及び昭和記念公園は、どれも自然豊かな場所であるため、自然豊かな多摩湖をうまく活用できないのか。観光客を多摩湖に呼ぶとしてもターゲットをどこに置くのか。ファミリー層を呼ぶことで、「ここ良いね」、「住みたいね」と持っていければいい。

多摩湖に来たお客が東大和に住むように持っていくには、仕掛けが必要ではないか。西武鉄道のコマーシャルを最近見ている主体が秩父になっている。多摩湖は出てこない。

先日、PDGのグループ発表の中で、西武鉄道グループと提携していろいろやりましょうというのがあった。そのような民間企業の発想、協力を取り込んでいったらどうか。一工夫してほしい。

P. 11の「各種がん検診受診率」であるが、胃がんや肺がんの受診率は、意外に低いと思えた。この受診率は、どういう計算方法で出てきているのか。これをお聞きしたい。

最後に、これだけ自然災害が各地で起こっているため、東大和市は大丈夫なのかという市民の関心が高まっている。東大和市では、先日、狭山丘陵の方でがけ崩れがあった。自助・共助・公助という視点からすると、行政の施策は公助の部分だと思う。私の自治会でも、2、3年の間に市の指導により、都の助成資金、市の助成資金を利用させてもらい防災設備の充実を図ることができた。このことについて各自治会にも利用してもらえよう働きかけをしていただいたら喜ばれると思う。

事務局：

市の施策の大きいところについて、いくつかお答えする。市長が、一番大きな施策として、日本一子育てしやすいまちを目指している。

その関係で、保育士対策、民間の学童保育所の開所、子どもを産みやすい環境づくり等、子育て世帯が何を望んでいるのか、という観点からいろいろな施策を推進してきている。その結果、日経DUALでは、共働き子育てしやすい街総合ランキングで3位という評価を受けた。評価を受けたときに市としても正直驚いた。日本一と掲げている、なかなか日本一や東京一

にはなれない。しかし、本当に子育て世帯が困っていることを解消するための施策を一生懸命にやると、評価される。

通常であれば、日経DUALの配点を分析し点を取りに行くことをするが、そういうことを一切やらずに出た結果であったので、行政としては驚いたとともに、本気で困っていることを解消するための施策を行えば評価に値するのだなと思ったところである。

しかし、保育士対策を行うに当たっては、財政状況が厳しい本市としては、お金の競争はできない。

そこで、市と保育園とで共同して、保育士を募集する説明会を行うことで、保育士の獲得につなげている。

目に見える成果は、たくさんではないかもしれないが、地道なところで一つ一つ進めている。

また、ご指摘のあった民間学童保育所も、学童保育所に入れられないというお子さんの状況を受け止め、民間と協力し学童保育所を2つ開所した。しかし、今、お話しにあったように定員に満たなかったところがあった。

正直なところ、学童に入りたいと言っている人が、必要度がどのくらいなのか。現在の状況を見て、疑問に思うところもある。

学童保育所に申し込み、その結果、待機児童にならないとランドセル来館に行けないという制度だったので、本当は、あまり困っていない人もとりあえず学童保育所に申し込んでいたのかもしれない。

しかし、今年から、その制度を変更し、待機児童にならなくてもランドセル来館に行くことができるようにした。その結果、待機児は3桁から2桁まで大幅に変わった。

観光の関係だが、昔、多摩湖は有名な桜の名所であった。私の家もお店をやっており、観光客や遠足客に対して、こけしを売ったり、絵葉書を売ったり、お茶を売ったりしていた。

そのため、私たちの世代よりも上の方にとっては、非常に知名度が高い。

しかし、今は、観光地としては、近すぎるといふところと、6年位前の下堰堤の工事をやったときに、人が入れなくなったことにより、人が来なくなった。

昭和記念公園にも、国立にもいい桜がある。北に行けば、埼玉にもいい桜がある。工事の時に他の場所に行ってしまった人は、戻ってきていないのではないか。

市長は、市内を桜やモミジで回遊できるような大回廊をつくらうという考えを持っており、東京都にお願いをしている。多摩湖の周辺のところについても古い桜は切っていただき、新しいのに少しずつ植え直していただいている。その桜を観光として見にきていただけるように、現在、取り組んでいるところである。

最後に、安心して暮らせるというところでは、台風15号も19号も20号もテレビの映像で見ると、すごい被害が出ているところがある。それと比べて、東大和はどうなのかという点で見れば、実際に水の影響は市内各所で出ている。

そのため、大きな貯留施設をつかってなんとか対応したいと考えている。特に、北の狭山丘陵から落ちてくる雨の影響が非常に大きい。今回、土砂災害が1件出た。一昨日ようやく、北側にいる人たちの車が出せた。建設同友会の力を借り、道路を埋めていた土砂を撤去し、う回路を通して車が出せるようになった。抜本的な復旧はこれからである。

また、台風による大雨に対応するため、避難所を急遽設置した。

昨日も避難所を開いたが、そうしたとき、今までは、少数の避難者だったのが、台風19号では、東大和市でも二百数十人の避難があった。

北側に住んでいる市民だけでなく、新堀を含めた南側に住んでいる市民も避難所に避難をするような状況であった。災害対策については、今後も適切に対応をしていきたいと考えている。

委員：

次に細かな部分の回答をいただきたい。分からない点については、後日文書で回答をいただければと思う。

事務局：

P. 5の「ティームティーチャーの配置時間数」についての教員の欠員については、ティームティーチャーは、正規の職員ではなく嘱託・臨職という形で対応している。

その職員を募集する際、資金面の問題がある。他市の方が、賃金体系が高いため、平成29年度までは他に行ってしまう状況があった。平成30年度は、募集等を根気よく行った結果、現在は、全小中学校に各1名ほどティームティーチャーを配置するようになった。このため、平成31年度以降の配置時間数は、伸びると考えている。

P. 8の「特産品の開発」についてであるが、主に産業振興課でやっているが、観光事業プラットフォーム運営会議と呼ばれるものがある。市内におけるさまざまな立場の方が参加し、自立できるものを開発しようとしている。私もこのメンバーであるが、去年、狭山茶を生かした、焼酎の狭山茶割りというようなものをプラットフォーム会議メンバーで協力し、中小企業大学校の場所を借りて、実証実験のようなものを行った。実証実験の中では、良い評価であったが実現には至っていない。

P. 11の「各種がん検診の受診率」については、健診の対象年齢の方に勧奨通知を送っているが、この受診率は市で検診を受けた方の受診率。人間ドック等に自身で行くなどし、数値が伸びていないところがある。

現在、事務局で回答できるのは以上である。これ以外のことで、ご専門の委員の方からご意見も伺いたい。

委員：

事務局から文書で回答をいただきたいのは、第2子第3子を産みやすい子育て環境を作っていくために、どんなことをやっているか。オリンピック等の諸外国から人が多く来るときの市の感染予防の考えや対応予定について。情報発信に関してうまべえにプラスアルファが必要ではないかということで、検討しているのか検討していないのか。文書で回答をお願いしたい。

教員に関してだが、新潟県の教育委員会の倍率は、1.4倍と聞いている。全国的に教員の採用の倍率が下がっている。若い人は、教員以外を選んで就職している。新聞報道だが、今まではリタイアした方を再任用で雇っていたが、最近ではリタイアをしたら教員免許を更新しない様子。現役のときは、更新料を行政が負担してくれていたが、リタイアをすると更新料が自腹になってしまう。自腹で払ってまでして更新したくはないので、失効してしまい、雇えなくなってしまう。そんな問題が起きている。

さて、他の委員からご意見や今のご意見に対するお考え等あれば、挙手を。

委員：

「創業塾受講者の創業件数」の関係は、南街の交番の前で新たなものができた。しかし、創業するということは、非常に大変なこと。資金面、経験、ノウハウ等いろいろある。これには注目していきたい。

空き店舗対策としては、現在3件南街地域で開業を予定している。徐々にではあるが、新しく開業する意欲のある方が入ってきている。

また、商業地域では、用途地域の見直しが課題である。特に、南街周辺の駅前地域は、用途地域の見直しを行わないと、企業が参入できない。

台風19号において、比較的にお安全だと思っていた東大和市の一部で崩落があった。土砂災害警戒区域として、東京都から東大和市は54か所指定されたが、全部を危ないとするのではなく、本当に危険なところを見極めてほしい。

多摩湖周辺については、昔は良かった。今は、多摩湖周辺の湖畔地域あたりの固定資産の評価が落ちている。この地域は、地区計画上、分筆ができなくなっており、業者が入りにくい。

地区計画で自分の首を絞めているのが現状。この地域は、非常に良いところであるので、地区計画を見直すことが必要ではないか。

商工会の方でも資金の調達は、低金利でできるようになっている。しかし、商売であるから、後が続くのか、もうかるのかが問題である。

市は他の自治体に比べ利子補給の面で遅れている。また、協会保証料についても減免とかをやってほしい。

東大和市は、市に既に大きな店があり、商業の核ができています。それを越える大きな店舗を構え、大人数を雇うというよりは、中小零細の商店を含め、地域社会コミュニティとして行政は支えてほしい。

教育関係だが、安倍内閣で働き方改革が叫ばれている。先生の時間をどう工夫していくかが課題であると思う。今後は、教員だけではなく、地域社会でも児童・生徒を見なければ、とてもでないがまわらなくなっている。放課後事業も、もっと全体から見ないといけない。先生にお願いしようにも時間がありませんと断られることがないよう、ギャップをうめることが大事で、行政として、教育に力を入れてほしい。

委員：

金融に携わるものとしての意見であるが、お二人の委員のお考えのとおり。お客様とお話をして感じるのは、資金のことでは利子補給も大事だと思う。場所のことについても、委員のお考えのとおりの問題がある。

その他の大きな問題として、人手不足。どこの業界でも人手が不足している。

また、創業という観点からいうと、お客様がお話をされるのは、会計・経理のこと。これは、切っても切り離せないものである。そこについては、税理士を紹介することをやっていると思うが、職場内で単純な経理を任せられる人材が少ないという悩みの声を良く聞く。

解決のヒントになるか分からないが、銀行では税理士プラスアルファとして、IT関係で会計関係をクラウドでやっているようなベンチャー企業をご紹介したりしている。どこの市町村でも同じ問題を抱えている。人の問題、中でも、お金に係る人の問題はどこでも起きている。

委員：

「観光アプリログイン数」についてだが、全国的にキャラクターがおり、飽きられてきている。マスコミ、報道業界では、キャラクター等は、もういいよと拒否されることもある。

ところで、東大和市にパワースポットは、あるのか。

事務局：

市長が狭山神社の石をパワーストーンとして、宣伝している。

委員：

その石をぜひ多摩湖畔に持ってきてほしい。というのも、「パワースポット」と「インスタ映え」というのが、キャラクターを越える動員数を誇っているからである。

多摩湖は、意外とひっそりしているイメージがある。市長がお考えの桜まで、タイムラグがある。その間にパワースポット化してしまうのはどうか。

年代を仮に恋人世代に設定すると、デートの際に多摩湖のきれいな写真を撮ってもらうことをしてはどうか。そのために「映える」時間帯は何時で、どの方向であるとかの看板等を出してほしい。

その後、その人たちが結婚したり、また、他の恋人を連れてきたりするという広がりがある。そんな広がりの中、桜が育てばさらに継続性があり、発展性もあるのではないかと。

事務局：

縁結びでもいいのか。

委員：

縁結びも良い。京都の地主神社（じしゅじんじゃ）という小さい神社は、何十億円という年商である。乙女受けするようなお守りをたくさん売っている。桜の名所化までの間にぜひ、パワースポット化をしてほしい。

事務局：

多摩湖の堤防からは、スカイツリーも見える。

委員：

最高に良い景色であるため、ぜひパワースポット化を進めてほしい。

事務局：

検討する。

委員：

パワースポット化を進めて事業化するのは、良いと思う。

委員：

パワースポットは、1箇所が良い。市役所で考えると、必ず回遊するようにしたがるが、訪れる方はそれを求めている。直線がいい。そのかわりに、狙ったターゲットに、ぜひ住むようなPRをすると良い。

委員：

どんな業種で創業しているのかということについて、私どもの施設の特徴からものづくり系は少ない。この地域の場合は、コーチングやコンサルティング関係のサービス業が多い。なお、製造業やITに特化した相談は、東京都中小企業振興公社を窓口として紹介している。

創業の件数については東大和市外で創業している場合や統計の数値に表れないものもあるなど、件数を追うのは難しい。

ボランティア的な創業は、あっという間につぶれてしまう。ボランティア的な創業は、ビジネスや商売ではない。創業する以上は、ビジネスモデルや事業計画をしっかりとたて、商売として持続するようにしなくてはいけない。軽い気持ちでなんとなくビジネスをやってみたいという人がかなりいるように見える。

不安、不満、不信等の「不」が付くものを解消するのがビジネスである。ビジネスは、単に自分がやりたいというだけではなく、心構えや事業の基本を学んだ上で創業塾や中小企業大学校等を受けてほしい。

創業後は、資金、場所等の問題が出てくる。市の施策は充実しているが、保証料の補填がもしできればそれも良いし、チェルステ・ガーデンのように市も関わって積極的に開業を支えるものもある。

委員：

P. 7の「しごとを見つける力になる」における求人・求職のミスマッチは、今に始まったことではなく永遠のテーマである。解消は、非常に難しい。

しかし、解消に向けハローワークも人手不足分野である保育、介護、看護について、実際に現場を見てもらってから面接を行うツアール面接会というものを月に1回、2回行っている。

就職面接会の参加者数は、目標値を少し上回るくらいだが、質の向上について取り組んでいる。

市とも提携し、年間4回、5回連携して、面接会を行っており、今後も引続き行っていきたい。

委員：

P. 4の「学童保育所・ランドセル来館事業・放課後子ども教室登録者数」だが、ただ預かるだけを、保護者は期待しているのではない。事務局の発言でもあったが、付加価値を求めている。私は英語教室を開業しているが、生徒の半分くらいの方は放課後教室のかわりに利用さ

れているように思える。早めにお子さんを連れてきて、宿題をさせておく、英語教室ではゲームを禁止しているので、ここなら安心して放課後を過ごすことができる。

レッスンを終わった後も、親がお迎えにくるまで安全だから英語教室にいる。そういうような使われ方もあるので、子どもを持つ親からすると一歩進んだサービスを提供してもらえると嬉しい。

P. 5の「学校生活を充実させる力になる」についてだが、保護者の方は皆様、学校の授業では足りないと思っている様子。英語教室にもたくさんのお子さんが来ている。子どもを学校に通わせる身としては、中学生の割合がとても気になる。中学生を持つ保護者の数人から、不登校になり、市外の学校に転校するとか、フリースクールに行くとか聞いている。

小学校から中学校に入るということは、子どもにとって、とても緊張することだと思う。市内にはないが、中小一貫校が流行っている。

何かで小学校と中学校の連携を強める取組をしているというのを読んだが、実際に連携を強めているのはPTAの交流と6年生だけが体験授業に行くというのをやっている。

小学校の吹奏楽の習い事で、練習回数を増やすため中学校で合同演奏をすることになり、子どもも行きたくないといって嫌がっていた。しかし、帰って来たときに楽しかった、お姉さんがすごく優しく指導をしてくれたと話していた。このような取組を低学年の段階から進めていけば、中学校に入るときの緊張が軽減して行きやすくなり、学習面につながっていくと思う。

P. 6の「しごとをつくる」についてだが、サービスを受ける側として、資金が課題。今月、英語教室の場所を探しに不動産会社に行った。予め店舗は高いと説明を受けていたが、高かった。アパートの空き室も問題になっているが、教室ならいいとしてオープンしているところがある。子どもが巣立って余っているので2階なら使っていいよとか。駐車場も昼間ならあいているからいいよとか。昔は、人伝えで聞いていたのに、今では不動産会社が紹介してくれるので助かっている。

チェレステ・ガーデンについては、昔は1か月おきだったのが、1日貸し、半日貸しが始まるという案内が来た。市の働きかけによるものだと思うので、続けてほしいと思う。

P. 7の「就職情報室への来場者数」のところであるが、今、アルバイトや転職相談は、ネットでされる方が多い。このようなことから、就職情報室へは行かないのではないかと思う。

ただし、ネットで探すと場所が住まいから遠くなる。

就職情報室であれば地域に根ざした就職が行えるというところをPRしていけば、来場者数は増えると思う。

P. 9の「東大和市の魅力を伝える」についてだが、Facebookのいいね!の数だが、なぜこれを目標値にしたのかというところがある。観光の方ではあまり見ていないが、台風や大雨のとき市の公式Twitterでの情報がすごく早かった。受信者側のパソコンの設定によるのかもしれないが、FacebookよりもTwitterの方が、情報発信がすごく早かったので助かった。

Facebook以外を含めれば目標値に達するのではないか。「インスタ映え」という言葉があるようにInstagramも使っていくと、ここの数値に資することにもなるし、魅力発信にもつながると思う。

委員：

なぜFacebookだったかということで、担当課によると当時はFacebookが主流だったためとのことだった。時代背景が変わり、今の時代とは合わない面もあるので、他のものを検討するのも良いのではと思う。

事務局：

学童保育所について補足がある。来年の4月に向け、民間の活用を進めている。その中で、放課後を過ごすことに加え、親が望んでいるプラスアルファについて検討している。

学習サービスや、長期休暇中の方にお弁当サービスを提供する等、対応を含めて検討している。小学校と中学校の連携についてだが、さらに連携を深めて続けていくよう調整していく。

(2) 東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延伸について（意見聴取）

委員：

「創業塾受講者の創業件数」について1つだけ。今は、廃業が多い。東大和市の商店で営業している方がいらっしゃるが、これからやめられる方の情報、空き店舗の情報を集め、創業に何かプラスになるもの、あいているところに安く入れてくれるとか、そういうところで補助が出るとか。いろいろ考えられる部分がある。

災害の話であるが、テレビを見ていると、入間市で氾濫の情報が流れた。すると入間市は危ないところなのではと思います、住みたくなくなると思う。不動産屋さんに話を聞いてみると、ここ水は大丈夫ですか？がけ崩れはおきませんか？と皆様気にするようになっている。

災害に強いまちというのが、今後の大事なテーマではないかと思う。多摩湖周辺のがけ崩れについて、お客様から話を聞いた。何かが起き、全国的に流れてしまうと大変ですので、災害に強いまちというのは大事なテーマだと思う。

P. 10の「うまかんべえ～祭の来場者数」であるが、私もうまかんべえ～祭に行ったが、いろいろなものを楽しめるし賑わいもあって良かった。よその市から来てもらうには、宣伝が良い。電車の中刷りは、通勤中に目に入るので良いのではないか。住んでいる人も、自分たちのまちの良いものが分かるし、近隣の人もおもしろそうと分かり良い。

また、東大和市に住んでいる人に、まちの良いもの、おもしろいもの、有名なものはなんですかと聞いてもぜんぜん分からない。やはり、住んでいる人にも、まちの良いところを宣伝することが大事であり、同時に周りにも広めることが大事。

今は、ネットの時代であるかもしれないが、中高年以上はネット以外のもので見方の方を好むので、そういうところでの情報発信が大事だと思う。

委員：

多摩湖のことに意見が出ているが、子育ての点から振り返ってみると、最近、子どもが大きくなったので多摩湖には行かなくなった。多摩湖の狭山公園、桜のきれいなところに行く家族は、小学校に入る前か、小学校低学年の層なのかなと思う。その家族層が公園に出かけるとなると、第一に駐車場があるかということ調べてから行く。例えば、無料の駐車場が400台あって、広い公園があって、無料の遊具があってというような条件がそろって行ってみようかとなる。

最近行っていないので分からないが、今、無料の駐車場はあるのか。

事務局：

無料の駐車場はある。

委員：

もしご存知のない方がいるのであれば、市内外に向け情報を発信すればまた集客が図れるのではないかと思う。ちょこバスが市内を走っているが、公園直通バスを一日何本か走らせるとか、トトロにちなんでそのバスをネコバスにするとか、パワースポット化をしてそのバスに乗ると願い事が叶うとか。

パワースポット化はすごく良いなと思って聞いていた。今、願い事を持っている若者や小学生が多い。願いが叶うというのは、人が来るのではないかなと思う。

話が前の部分に戻るが、P. 3の「乳幼児健康診査受診率」が上がったのは、とても嬉しいことだと思う。これは、乳幼児がいる家庭に全戸訪問をする事業を行い、結果を出したものではないかと思う。小さい赤ちゃんを抱えた家庭は、一歩外へ出ることも難しい。そこへ市の方が来て、いろいろ情報を流すのはとても大切なことだと思う。この事業は、継続して続けてほしい。

P. 4の「病児・病後児保育室の登録者数」についてだが、東大和市が子育て日本一を目指す中では非常に大事なキーワードだと思う。しかし、登録者数が横ばいなのが気になる。なぜ

横ばいなのかを考えると、登録の段階で受け入れてもらえないのではないかと先入観が根付いてしまっているのではないかと。

働いているお母さんは日々忙しいので、平日休みをとってまでして、登録をしに行っても、「どうせ使えないのではないかと」思ってしまうのではないかと。そうであるなら、定員を増やしたり、市報で情報をもっと流したりすると、利用する方も増えるし、お母さんたちも助かると思う。

P. 10の「うまかんべえ～祭の来場者数」であるが、うまかんべえ～祭は、毎年楽しみにしている。子どもも大人も楽しめる大変良いイベントだと思う。これもぜひ続けてほしい。うまべえのキャラクターは、今は市内のどこでも見られる。バスに乗っていても見ることができる。近頃は、アイドル化までしてきたと思う。うまべえが来ると子どもも、歓声をあげて喜び、寄ってくるので、今が売り時ではないかと思う。前にも話したが、ぜひうまべえの歌を企画で作ってほしい。曲は出来上がっているので、よければ声をかけてほしい。

こういった歌を駅の発車のベルに使うとかしてみたら、おもしろいのではないかと思う。

次に、防犯体制については、子育てをしていると不審者情報が来るととても心配である。青色回転灯パトロールの車が巡回しているのを日々見るが、そういうのを見るととても安心する。こういう事業は、ぜひ続けてほしい。

P. 13の「特色のある公園の数」についてだが、これから整備していただけることは嬉しい。公園は十分にあると思うので、新設よりも今ある公園を生かして、遊具を綺麗にしたり、花を植えたりすると、もっと子どもたちが遊びやすくなるのではないかと思う。

委員：

議題（１）（２）で説明している「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というのは、最終的に人口を増やしていくことを目標と考えていいのか。

事務局：

人口減少の抑制が目標である。今の東大和市の推計では、人口が減少している。そのため、人口減少の抑制を目指すことを総合戦略で取り組んでいる。

委員：

自治体間競争に打ち勝つためとして、近隣自治体ではやっておらず、この自治体だけであるというお得感が重要である。

子育て世帯は、賃貸に住むことが多いが、２年に一度の賃貸契約更新料がかかる。これが、ばかにならない。この賃貸契約更新料を市が補填する。

東大和市は、更新料がかからないということをお母さんたちの口コミで広まると大変な反響になる。

また、賃貸に住むときの連帯保証人の問題が非常に大変で、課題になっている。この連帯保証人のところを民間の信用会社に委託し、連帯保証人はいらないとするだけで、転入者に口コミで広がり好印象を持つと思う。

各委員から、災害対策の話が出た。その中でどこもやっていないことという、例えば、子育て日本一をうたうのであれば、紙おむつ、液体ミルク、離乳食、おしりふきの人口当たりの備蓄料は日本一とかすれば、大変な反響になると思う。

シビックプライドは、こういうところから生まれる。お母さん同士の会話で、他のまちに住んでいるお母さんに対し、うちの市はすごいんだよと会話の中で言えるかどうかだと思う。

シビックプライドを醸成しつつ、市民満足度を高めていくことを考えていただけたらと思う。

(3) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

委員：

既に意見交換を行っているので、(3)の意見交換は、時間のため終了する。